

里地・里山 だより

活動報告号 2024 春

発行
里山フォーラム in 麻生
川崎市麻生区万福寺 1-5-2
麻生市民館気付け

- もくじ P1 第18回わたしのまちのホッとする風景写真展
- P2 P3 “2024 里山フォーラム in 麻生” 第1部、第2部
- P4 P5 あさお里山こどもクラブ
- P6 里地里山ナチュラリスト養成講座
- P7 P8 里地・里山カフェ塾（からむし講座、万福寺人参）

第18回 わたしのまちのホッとする風景写真展（今編、昔編）

寄せられた 158 点の作品からは、足もとの自然に誘われ、まちを歩いて 見て 出会った 自然暮らし 出来事などが映し出されていました。昔の写真も多く提供され、麻生区の里山の歴史が蘇って来ました。展示は麻生市民館のウォールギャラリーで2月9日～3月5日まで行いました。
《受賞作品の紹介》（本写真展はコンテストではありませんが賞を設けています。）



麻生区長賞 石井信〔森の中の繭〕
岡上梨子木特別緑地保全地区



麻生市民館長賞 井上俊夫
〔四季・春夏秋冬〕から春
白山神社下側の田んぼ



里山フォーラム賞 鈴木秀雄
〔万福寺十二神社物語〕〔四十八枚田〕〔茅葺き屋根の綿帽子〕から
四十八枚田 万福寺



ホッと賞 左から 雛倉正人〔卵の花咲く都市河川〕上麻生6丁目 安藤敬〔メジロの舞い〕白鳥 真下智彦〔スプリング・エフェメラル〕黒川 大友洋祐〔茜差す頃に〕王禅寺西
（氏名〔作品タイトル〕撮影場所）



特別賞 左から 市嶋新〔金程から眺めた勝坂の丘〕〔千代ヶ丘から金程に通じる道〕から 1981年金程から千代ヶ丘の勝坂のある丘を眺めたもの 井上康輔〔葉積台から見た山口谷戸と山口台40年の変化〕から 1983年葉積台から山口谷戸を見たもの 井上俊夫〔雪の白山神社〕〔大正の頃の民家〕〔我が母校〕から 1958年頃の東柿生小正門

2024 里山フォーラム in 麻生

2月23日(金曜-祝日)

麻生市民館
大会議室



- 9:30 一般受付開始 総合司会 石井よし子
「フォーラム資料集23」配布 ポスターセッションと交流
- 10:00 第1部
- 柿生の山伏 高橋昂希 先導
 - オープニング 柿生中学校吹奏楽部 演奏
 - 挨拶 里山フォーラム in 麻生代表 堂前雅史
麻生区役所区長 山本奈保美
 - 第18回 わたしのまちのホッとする風景写真展
今編、昔編 表彰式
 - 子どもたちの発表「私たちが地域とともに学んでいること」
 - * 岡上小学校 「イツツ岡上ワールド～里山(丸山)と共に～」
 - * 東柿生小学校 「輝け 里山 一番星☆」
 - * 柿生小学校 「柿生の里山の魅力を伝えよう」
 - お楽しみワークショップ
* ムクロジってなあに? ムクロジ(無患子)で遊ぼう!
* 炭に触って、切ってみよう
(昼食休憩) ポスターセッション
- 12:45 第2部
- 挨拶 麻生市民館 館長 齊藤誠
環境局企画課 課長 藤田晃央
建設緑政局緑政部緑化フェア推進室担当課長 矢口菊子
 - 基調講演 「足もとの生物多様性から未来へ」
堂前雅史 和光大学人間学部教授
 - 展示団体・施設によるトークリレー
「みどりを守る・環境を守る・いのちをはぐくむ を繋ごう！」
 - ◎ 麻生の地元農産物紹介 お野菜当選番号発表
- 15:00 閉会

オープニングは大会議室に響き渡る柿生中学校吹奏楽部の元気な演奏。「かきくけかきお」のメロディには参加者も手拍子で湧きました。後輩となる岡上小学校、東柿生小学校、柿生小学校の児童の皆さんも勇気づけられるようにしっかりと楽しく発表してくれました。



岡上小6年生は学校山ともいえる丸山で、テーマごとに考えて、学び、実行していることの発表です。テーマは・丸山改革大作戦・岡上の至宝・丸山に秘める遺跡・地形・生き物・継続するには?などでした。

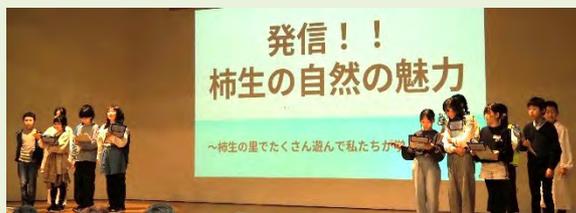


東柿生小6年生は早野の里山で取り組んでいることの発表です。竹でものづくりでは竹ランタンの紹介も。里山SDGsフェスでは生きもの探検・紹介をしている。植樹は3年生から取り組むなどを発表。



柿生の山伏の先導のもと山本区長、岸副区長、齊藤市民館長、堂前代表の入場です。

4年振りのフルバージョンの開催です。240名の方々が参加し、子どもたちの発表を聞きました。



柿生小5年生130人がそれぞれの関心のあるテーマを持って、柿生の里へ来て遊んで学んで調べて作業もしました。会場では14人がその1年間の成長の賜物と言える発表をしました。



初めの挨拶：堂前代表は麻生区は都市でありながら自然と隣接し、気候変動や生物多様性を実感できる場所である。市民、行政の努力、様々なジャンルの協力でなされ維持できている。一堂に多様な人々が会することができるのは麻生区の宝であると話しました。

山本区長は、本事業は農と環境を活かしたまちづくり事業に位置づけられている。開催中の写真展を見たが素晴らしい写真が残されていることや、気持ち反映された写真が多いのは麻生区の貴重な財産である。麻生区は素晴らしい自然と出会える場所である。区民の努力に感謝し、川崎のこれからの100年、地域の次世代にこのような活動の輪が広がるようにと話されました。



山本奈保美区長

麻生区はネイチャーポジティブ拠点

- ・都市生活と野生生物が隣接
- ・環境教育への活用
- ・市民の自発性による多様な管理

・市民の力でグリーンインフラが充実したネイチャーポジティブなまちに



堂前先生の基調講演：2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させるというネイチャーポジティブの実現を目指すという目標を見据え、都市全体を重要な自然と位置づけ、麻生区の特徴を踏まえると麻生区はネイチャーポジティブの拠点になるのではとお話されました。お話は18枚のスライドで進められました。(ネイチャーポジティブ-昨日新百合ヶ丘駅で-環世界という見方-動物は我々とは異なる環世界の住人-都市といえども野生動物のすみ場所-ネイチャーポジティブ2020-GDPの自然への依存度-自然共生サイトの認定-グリーンインフラ:都市の自然のもうひとつの価値-都市の緑地は重要なグリーンインフラ-都市緑地をOECDとするにあたっての課題 1.孤立した生態系の問題 2.誰が管理するか問題 3.保護区指定の自己目的化問題-麻生区はネイチャーポジティブ拠点



麻生市民館館長
齊藤誠



環境局企画課課長
藤田晃央



緑化フェア推進室
担当課長 矢口菊子

齊藤さん:里山を未永く生活と共に維持できればと思う。藤田さん:生物多様性に貢献している活動の数々を見せてもらった。市民参加型の生き物探しをぜひ願います。矢口さん:緑化フェアを二期開催するのは川崎市が初めて。里山のブースも用意する。

ポスター展示とトークリレー (参考:フォーラム資料集23)

(紙面並びに写真の都合上一部紹介)



多摩美みどりの会



あさおプレーパークを創る会



花と市民参加の会



森もりクラブ



吹込みクローバーの会



早野聖地公園里山ボランティア



はるひ野里山学校



高石みどりの会



かわさきかえるプロジェクト



はぐるま稗原農園



麻生区クールアース推進委員会



があでん・ららら



水辺のある里山を守る会



和光大学・かわ道楽
和光大学地域連携研究センター



NPO かわさき自然と共生の会



麻生ヤマユリ植栽普及会



柿生の里クラブ
おっ越し山クラブ



万福寺人参友の会

あさお 里山こどもクラブ

こどもたちが育つ足元の麻生の里地里山の恵みや不思議を
探検・発見、そして体験するプログラム。
耳を澄まし目を凝らし、自分の手と体と心で感じ、
自分の頭で考えましょう。
「不思議」がむくむく湧いてきたら
調べてみよう、聞いてみよう！

第1回 10月29日(日曜) 自然は、友だち

「一緒に遊ぼう！ あなたってなぁーに？ と草や木に聞くと…」

- ・場所 王禅寺ふるさと公園(市制60周年記念総合公園)
- ・講師 高柳芳恵(ナチュラリスト)



高柳先生と一緒に公園内を移動しながら自然観察と実験をする。公園入口付近でジョロウグモの抜け殻を観察、ネズミモチの種で遊ぶ。池のそばでドロバチの巣の観察。キチョウの蛹とハギの葉っぱ。谷戸のへりの雑木林が残っている所を登って行きながらコナラのドングリを拾う。上のベンチでクロガネモチの葉っぱに字を書き、マルバアオダモの小枝の蛍光物質が見えるか実験。ヒサカキの実で遊ぶ。ドングリを拾うシラカシ、スダジイ、マテバシイ

第2回 11月5日(日曜) 岡上に出会う

「川・田んぼ・山がある岡上、何が見つかるかな？」

- ・場所 岡上地区(鶴見川～岡上梨子ノ木特別緑地保全地区)
- ・講師 堂前雅史(和光大学教授) 齋藤透(和光大学)
かわ道楽 樋田智徳 菅沢志大 荒井武翔

堂前先生からは、谷戸という地形、谷戸の神様、角の生えたへびのお話までありました。田んぼや畑を通過して谷戸のてっぺんの緑地へ登るとオオタカが2羽空高く飛んでいました！そこはカヤの生える草地、コナラの植林地、元々の雑木林があってそれぞれの生態系があるそうです。住んでる虫さんも違うのだそう。アカネズミとドングリのお話もありました。



第3回 11月19日(日曜) 目指せ秋の自然マスター!

「秋の里山 じっくり観察 どっぷり満喫」

- ・場所 おっ越し山ふれあいの森ほか
- ・講師 小林健人(長池公園副園長)



子どもの発見と質問に応えながら始まる。「秋の種と実」とん鈴前でトクサのつくしんぼとツワブキは美味しいと話が始まる。おっ越し山でフジの実、ネムノキ、ハゼの実。キバナアキギリの花は面白い! ムラサキシキブの実はきれいだが美味しくない! アオハダはどうしてと引っ搔くと…。おっ越し山は何とオオタカの調理場なんだって! 散歩道の木の上でヒチュリリーと鳴くのはリュウキュウサンショウクイ。柿生の里でヤブマメ etc



第4回 12月3日(日曜) 柿生の里の収穫祭

「里山の作業をしたり、作ったり、そして収穫祭」

- ・場所 柿生の里特別緑地保全地区
- ・講師 柿生の里クラブメンバー



前回からわずか2週間のうちに季節は進みました。葉っぱもたくさん落ちて柿生の里は冬の様相です。今回は初めて事前準備にと3組の親子さんが来てくれた。遊ぼうパン、焼き芋用の「火」を作ります。孟宗竹をのこぎりで全員切ることができました! 落葉掃きは楽しいね! 炭で焼く遊ぼうパンは美味しい。賞状も全員に。皆勤賞はふるさとナチュラリスト証。みんなの笑顔でスタッフ一同も安堵しました。



里地里山ナチュラリスト養成講座

★里地里山★を知って・学んで・動こう！ あしたへ



春を感じて 里山散歩 ①

～早野探訪～

3月20日（水曜・祝日）

午前9時20分～午後2時頃

早野聖地公園のある早野はその昔七つのため池の水を利用した田んぼが谷戸から早野川へと続いていました。さて今は？ 風景にかかわる方々のお話を聞きながら、早野の春を探訪します。



【風景の成り立ちを学び考えよう！】

バス停 早野から丘陵の付け根の矢崎前から横浜市鉄町との境の「鉄火松」へ。松にまつわる民話は紙芝居になって口演されているそうです。この尾根道は古くからの道。旧石器時代から近世の複合遺跡の発掘中の上野原を臨みます。早野の地名の由来は早くから切り開かれたというハラノ→ハヤノではないかという説がしっくりきます。梨畑や養鶏場を抜けて殿様の墓、戒翁寺、早野聖地公園へ。天候の変化にせかされつつ中の谷の尾根越えで梅が谷戸の炭焼き小屋へ。早野聖地公園里山ボランティアの活動場所です。伐採木枝でのシイタケやなめこの栽培で資源循環の様子を見学できました。

上池の満開の菜の花畑に感動しつつ尾根越えで虹ヶ丘の住宅街へ。風景の落差を整理しつつ新しいコミュニティ作りを励んで来た虹ヶ丘おやじの会のお話を聞きま

した。東急が目指す繋がりや交流の場でもある nexus チャレンジパーク早野は営業日外のためお話は聞きませんでした。

里地里山ナチュラリスト養成講座 ☆里地里山☆を知って・学んで・動こう！ あしたへ

春を感じて 里山散歩 ②

～岡上探訪～

3月24日（日曜）

午前9時50分～午後1時頃

川崎市の飛び地 麻生区岡上。暮らしの歴史とともにくまれてきた里地里山風景がひろがります。どんな春が来ているでしょう？ 石造物などを辿りながら、地域に伝わる民話の紙芝居も鑑賞します。

第18回おたしのまものつづける風景写真展に寄せられた写真から、真下智高 撮影 昨年の3月米の割上の落も祭 「里山に春が来た」



谷戸の辻の石造物

岡上には岡上の人々が営々と築いてきた農の暮らしとその上で形成されてきた里地里山の風景があります。

「水の里」「果樹の里」「花の里」でもあります。また川井田、自正寺（天神、梨子木）、池ノ谷、新田の谷戸があり、宅地化が進んだ現在でも全域で谷戸地形が残ります。舌状大地の付け根の丸山には縄文時代から奈良・平安時代までの複数の時代にまたがる集落遺跡があり、住みよく暮らしやすい土地柄だったのでしょう。そしてそこに現在の岡上もあります。

鶴見川の大正橋付近ではカワセミが見られました。川井田の辻の石造物～谷戸の辻の石造物～営農団地へ。観光農園やまかげではブルーベリーの接ぎ木作業をしておられました。岡上分館では昔の暮らしの身近にあった川（かっぱ）、柿、養蚕を題材にした紙芝居を楽しみました。地域の暮らしの歴史を繋ぐ試みに勇気づけられました。





からむし講座

麻生区の地名が由来する植物 麻=からむし(苧麻)を学ぶ講座です。毎年繊維がとりやすい6月から7月にかけて開催します。講座では縄文時代からの人と自然のかかわり-文化をつむぎ、次世代に伝えようと試んでいます。



からむしボランティア 研修

7月2日(日曜) 麻生市民館 料理室 午後2時~4時

- カラムシという植物を知って、「親子で楽しむからむしワークショップ~紙漉き編」の準備です。
- 指導 高柳芳恵(ナチュラリスト)
- 協力 里山フォーラム in 麻生 幹事・スタッフ



参加者それぞれ楽しんでます



7月23日(日曜)

あさおしみんかん 料理室
麻生市民館

午前9時45分~12時頃

からむしで紙づくりにチャレンジ!

- * からむしってなに?
- * どうしたら紙になるの?
- * 不思議な世界を体験してみよう!

講師 高柳芳恵(ナチュラリスト)
協力 からむしボランティア

令和5年度 麻生区地域福祉推進事業 麻生区民会館(在り)実施事業

からむしのこえ 上映会

7月8日(土曜) 午前9時30分~12時 麻生市民館 実習室

麻生区の地名が由来する植物 麻=からむし(苧麻)の文化を映像で学ぶ

国立歴史民俗博物館から記録映画『からむしのこえ』のDVDをお借りし上映会を開催しました。里山フォーラムでは日本民族文化映像研究所制作の『からむしと麻』を拠りに体験学習を進めてきましたが、『からむしと麻』制作時から30年を経て、昭和村の織姫制度で繋いで来たからむしの技術や文化を学びました。監督:分藤大翼(信州大学准教授)

- 映画終了後の麻生のからむし体験(苧引きや糸づくり)では皆作業に夢中になりました。
- 案内 石井よし子(麻生のからむし探索家・里山フォーラム in 麻生事務局長)



万福寺鮮紅大長人参は、現在の麻生区万福寺とその周辺地区のかつての特産品で、全国野菜品評会において昭和 29 年から 5 年連続で日本一になった人参です。

この人参は畑の土づくりに励み幾多の困難を乗り越えると 80 cm-90 cm級の長さに成長しますが、努力を重ねてもなかなかそうはいかないのも、毎年栽培に挑戦する力になると語る栽培者の方々もいます。甘みが強くこくがありお正月はこの人参が欠かせなくなります。先人たちの苦勞に思いを馳せ、工夫を凝らしながら畑作業をしての作品が毎年 12 月の品評会に集まってきました。

ところが今年度は、この人参の種蒔き適期(=7月中旬)に酷暑続きの異常気象が重なって、「種蒔き⇒発芽」がうまく行かず、今年はだめだよというお話がたくさん寄せられました。そんな中 12 月 23 日(日曜)の《第 24 回万福寺人参品評会-私の万福寺人参を語り合う会-》を迎えました。お互いに仲間に声を掛け合って出品に漕ぎつけた人参が 29 組！

なお今年度も味覚賞は審査できませんでし

たが、審査委員(成松次郎 長瀬和徳 岩本陽児 山本奈保美 齊藤誠)による厳正な審査のもと、以下の賞が決まりました。

- ・最優秀賞-古川美賀(黒川東)・姿(ルックス)賞-岩淵佳子(黒川東)・色彩賞-小林貴也(黒川東)・香り賞-二見萌菜(明治大学生田校舎農場)・努力賞-金程小学校 2 年(校内)
- ・努力賞-田中陸斗(明治大学生田校舎農場)
- ・ユニーク賞-深沢祐二(黒川東)

審査中の別室での「語り合う会」では、酷暑ならでは



の工夫の数々を真剣に聞き合います。8月の、2回目、3回目の蒔き直しをした苦勞を伝え合いました。夏は絶望を味わい、そこから巻き返したとも。明治大学生からは 6 月に種蒔きをしたと聞き、それには納得と、来年に向けて心新たに栽培へと駆り立てられる時間でした。



展示で賑わいました！(2024 年 2 月)

- 新百合 21 ビル市民ギャラリーにはフォーラムの事前展示として 14 団体が展示。助け合いながら交流の場にもなりました。
- 麻生市民館のウォールギャラリーでは写真展の今-昔編、今編の写真が壁面いっぱい並び圧巻でした。そして何より足を止め 1 点ずつ見て多くの方が感想を書いてくれました。



催 10月31日 多摩市民館
かわさき創造プロジェクト主催
方々と交流できました。NPO
ではパネル展示とプレゼンテ
第15回シニアライフ講演会



感謝 講座やイベントへの参加者の皆様、講師を務めてくれた先生方、伴走してくれた生涯学習支援課職員はじめ市民館職員の皆様、小学校、柿生中学校、団体や施設の皆様、力を合わせてくれたボランティアスタッフ、幹事に深く御礼申し上げます。

主催 里山フォーラム in 麻生/麻生区生涯学習支援課(麻生市民館)
里山フォーラム E-mail satoyamaforum@gmail.com TEL 070-6426-6123
麻生市民館 TEL 044-951-1300

だより編集、文責-石井よし子
写真-雛倉正人、山口幸紀、
田中肇、石井よし子